

○平成 30 年度 合同講義＜前編・後編＞（結核研究所）

テーマ：グローバル化を見据えた新たな結核対策

講義の目的：

本邦における新登録結核患者は 17,625 人（結核罹患率人口 10 万人対 13.9 [平成 28 年]）と、順調に減少傾向にあります。一方、外国出生の結核患者は増加の一途にあり、全年齢では 7.6%、20-29 歳の年齢階層に限るとすでに 57.7%と約 6 割に達しており、今後も増加傾向が見込まれます。これに伴い、職場や日本語学校等で外国出生者の関わる結核集団発生が報告されており、日本人の同僚への感染も認められています。

このような状況の中、平成 28 年 11 月 25 日に厚生労働省は結核に関する特定感染症予防指針を一部改正し、ストップ結核ジャパンアクションプランで目指している 2020 年の結核罹患率の低まん延化に向け、日本における結核対策の新たな方向性が示されました。

今年度は、結核対策技術者に必要な結核対策の基本や最新の疫学状況に加え、ここ数年の新たな結核対策の現状をご紹介します、低まん延化に向けた対策について課題を共有していきます。

講義内容（予定）：

1. 結核の基礎知識
2. 結核の疫学状況
3. 外国出生結核患者（含：他国の入国前検診の実施状況、フィリピン帰国患者紹介の取り組み、留学生における IGRA 陽性率）
4. 小児結核の現状
5. 最近の集団発生から（留置者の結核、日本語学校、精神病院等の概要）
6. 多剤耐性結核治療の世界的趨勢及びデラマニド（ベタキリン）の使用について
7. 結核医療の基準改正に向けた提言（高齢者の 4 剤治療）について
8. IGRA 検査と LTBI 治療・管理のポイント（QFT-Plus、若年者の IGRA 陽性率、陽性反応的中率）
9. LTBI 治療の副作用
10. 結核分子疫学調査手引、接触者健診の手引き 運用のポイントについて
11. 結核入院医療処遇困難者の状況（2013-14 年）
12. 結核医療提供体制の現状と課題
13. 2018 年 4 月以降、治療成績評価方法変更について

○平成 30 年度合同講義(厚生労働省)

テーマ：結核低まん延化に向けた今後の対策の方向性

講義内容：予防指針改訂と 2 月の結核部会の議論を踏まえ、「罹患率の一層の低下を目指すための患者の早期発見施策（高齢者、外国出生者）の推進」について主にお話しする予定です。

○平成 30 年度 医師講義

テーマ：結核診療－最近の話題－

講義の目的：

本邦では結核患者が順調に減少し、2020 年に向け、低まん延化がほぼ目前となっています。一方、結核診療の専門家の減少が著しく、地域によっては結核診療の維持が困難になってきていると考えられる地域も増えてきています。このため、結核診療におけるプライマリ・ケア医の役割は今後増加してゆくと考えられます。本講では、プライマリ・ケア医に必要な標準的な結核診断及び治療の知識についておさらいし、加えて最新の知見を紹介し、結核診療への理解を深めていただきます。

講義内容：

- ・ 結核の診断および治療の基本
- ・ 結核診療における抗酸菌検査の役割
- ・ 新しい検査法、治療薬
- ・ 診断、治療が難しかった事例の提示

○平成 30 年度 診療放射線技師講義

テーマ：結核対策の課題と診断参考レベル活用のポイント

● 講義の目的：

本庁や保健所、病院や検診機関に勤務する診療放射線技師（以下 技師）を主な対象とし、低まん延時代を見据えた結核対策の様々な課題と、医療被ばく低減を図るために「診断参考レベル」を活用するポイントについて取り上げます。

講義では、結核症や結核対策の基礎的な内容を踏まえながら、患者発見方策、接触者健康診断、IGRA 検査、VNTR を用いた分子疫学調査、潜在性結核感染症 (LTBI)、日本版 DOTS などについて判りやすく解説します。さらに、先進的な結核対策特別促進事業の紹介や、結核の行政事務業務における課題について情報提供を行います。

また、近年、放射線被ばくに対する社会的関心が高まっており、医療被ばくに関する正しい情報提供を行うことが技師に対して求められています。放射線防護の基礎知識を確認すると共に、2015 年に策定された「診断参考レベル (DRLs2015)」を活用するためのポイントを確認します。接触者健診で用いられる CT 検査の被ばく線量の考え方や測定法についても詳細に解説します。

保健所で結核対策を担っている技師だけでなく、医療機関で臨床を担当している技師にも、実務に即応した “現場で役に立つ” 最新の情報をお届けします。

● 具体的な講義内容：

- ・ 結核症の「感染」と「発病」
- ・ ハイリスクやデインジャーを対象とした効率的な患者発見方策
- ・ 接触者健康診断の基本的な考え方
- ・ IGRA 検査における判定基準
- ・ VNTR を用いた分子疫学調査体制の整備
- ・ 潜在性結核感染症 (LTBI) の積極的な推進
- ・ 日本版 DOTS をさらに推進するための方策
- ・ 放射線防護の基礎知識
- ・ 診断参考レベル (DRLs2015) を活用するためのポイント
- ・ CT 検査の被ばく線量の考え方や測定法

● 主な対象：

本庁・保健所・病院・結核予防会支部・検診機関に所属している診療放射線技師職種

➤ 保健師・看護師・臨床検査技師・薬剤師・事務職員など、他の職種の方の受講も可能です。

● 医療機関への参加勧奨について：

一般の医療機関に勤務する様々な職種の方々にも有用な内容を含んでいるため、ブロック内の病院や検診機関への積極的な参加勧奨をお願いできれば幸いです。

○平成 30 年度 保健師・看護師講義

テーマ：結核のない世界を目指して～結核に対応した地域包括ケアシステムを活かして～

講義の目的

結核に関する感染症予防指針が改定され、より効果を高めることが重要な事項として患者中心の DOTS の推進”が掲げられました。確実な治療成功を目標に、結核専門病院との連携に加えて高齢者施設、一般医療機関外来、薬局、職場等との多様な連携による服薬支援、患者を中心とした総合的なケアが求められています。結核に対応した地域包括ケアシステムを活かして結核の早期発見・発病予防・確実な治療の重要性について普及啓発できるよう、知識を深めることを目的とします。

講義内容

1. 結核の最新情報と基礎知識

看護職及び服薬支援者として必要な結核の基礎知識

2. 医療・保健・福祉との多様な連携

1) 早期発見（高齢者施設、ハイリスク者など）

2) 治療の徹底（LTBI 含む）

患者を中心とした様々な支援（外国出生者、禁煙支援など）

3) 地域包括ケアを視野にいれた連携（高齢者等）

4) 結核登録者情報システムのコホート情報の活用

3. 院内施設内感染防止対策

高齢者施設等の対策

感染管理認定看護師との連携

抗酸菌エキスパート制度の紹介

4. 資料紹介

禁煙支援マニュアル、DVD、アプリ、・・・